

告示	番号	3	内分泌疾患
	疾病名	エストロゲン過剰症（ゴナドトロピン依存性思春期早発症及びゴナドトロピン非依存性思春期早発症を除く。）	

## エストロゲン過剰症（ゴナドトロピン依存性思春期早発症及びゴナドトロピン非依存性思春期早発症を除く。）

えすとろげんかじょうしょう（ごなどとろびんいぞんせいししゅんきそうはつしょうおよびごなどとろびんひいぞんせいししゅんきそうはつしょうをのぞく。）

### 概念・定義

男性では女性化乳房をきたし、女性では巨大乳房、不正性器出血を呈する疾患で、血中エストロゲンの高値を認める。

### 症状

男性では女性化乳房をきたし、発症時期によっては低身長となる。女性では巨大乳房や不正性器出血を呈する。

### 治療

原病の治療を行う。女性化乳房自体は良性の疾患であり、症状が軽い場合はそのまま経過観察するが、程度が強い場合、若年発症で低身長が

予測される場合に治療を行う。内科治療として、アンドロゲン製剤、抗エストロゲン薬であるタモキシフェンやラロキシフェン、アロマターゼ阻害薬であるアナストロゾールなどがある。また男児で5 cm以上の乳腺腫大で社会的精神的問題を生じる場合は外科的切除が行うこともある。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/5\\_27\\_59.html](http://www.shouman.jp/details/5_27_59.html)